

入学者の学力・能力

大学学科長の約7割が学力低下・学力差を問題視している。

大学入学者の基礎・基本的な学力・学習の状況についてたずねると、特に「高校の教育課程で身につけるべき教科・科目の知識・理解が不足している学生」「文章を書く基本的スキルが身につけていない学生」「基本的な学習習慣が身につけていない学生」が「半分以上」との認識を示した大学が3割台（私立では概ね4割）に上った（図1-1）。一方高校側でも、4年制大学に進学する予定の3年生の中に「半分以上いる」とする比率は3割台であり、大学側と概ね同様の認識である（図1-2）。こうした状況は、今日の大学教育に少なからぬ影響を及ぼしている。「以前より学生の学力が低くなったこと」が問題になっているかを問うた設問では、学科長の実に7割以上が「問題になっている」（「かなり問題になっている」＋「まあ問題になっている」の合計値）と回答しているのは何よりの証左であろう（図1-3）。

また、学力水準の低下とともに指摘されているのが学力格差である。「学生間の学力差が大きく、授業がしづらい」に対して学科長の67.8%が「問題になっている」と回答している事実は特筆すべき状況だろう。1990年代以降、独自の学力入試にセンター入試、推薦入試、AO入試を加え、大学は入試の仕組みを多様化させてきた。目的は多様な資質・能力を持った学生の獲得であるが、結果としてそれは、入学者の「学力の多様化」を招くこととなった。このような過去を省りみた時、今後入試の多様性をどの程度まで許容するのか。これは大学生に対する教育の質と効率性を担保する観点から大学入試改革のあり方を考える一つの視点である。

大学で必要とする力は思考力・判断力。高校で力を入れるのは基本的学習習慣と社会性の涵養。

次に、大学では大学での学びに必要なレディネスの過不足の状況をどのように捉え、高校側ではどの程度力を入れて育成しているのか。まず大学側の認識を見ると、入試難易度により特徴がみられる*。入試難易度の高い大学群では、論理的に考える力や根拠に基づいて判断する力、物事を多面的に捉える力などは「かなりの程度必要である」とする比率に対して「備わっている」とする比率は相対的に低い。同様の傾向は自分の考えを文章を用いて表現する力、考えを伝えあったり議論する力等においても見られる。こうした大学側の認識に対して、高校側での育成はどのような状況なのか。特に力を入れて取り組んでいるのは、「基本的な学習習慣」の他、「社会の規範やルールにしたがって行動する力」「人と協力しながら物事を進める力」といった社会的な態度・能力の育成である（図1-5）。

また大学では「与えられた課題だけでなく主体的に学ぶ力」については、入試難易度の高低にかかわらず「かなりの程度必要である」より「備わっている」比率が低い。すなわち主体的に学ぶ態度の育成は今日の大学生全体の課題といえるが、難易度が低い大学ほどより重要な意味を持つようだ。一方高校側でその育成に「かなり力を入れている」のは26%程度である（図1-5）。高校大学の教育的接続が課題とされる今日、思考力・判断力等、大学で「かなり必要」とされた諸能力に対する、高校内での育成の優先順位は必ずしも高くない。その課題の内実は、学生の学力の違いによっても異なる。こうした現状を踏まえながら、妥当性・実効性のある議論をすべきだろう。

（ベネッセ教育総合研究所 主任研究員 樋口 健）

* 報告書中に図示はしていない。

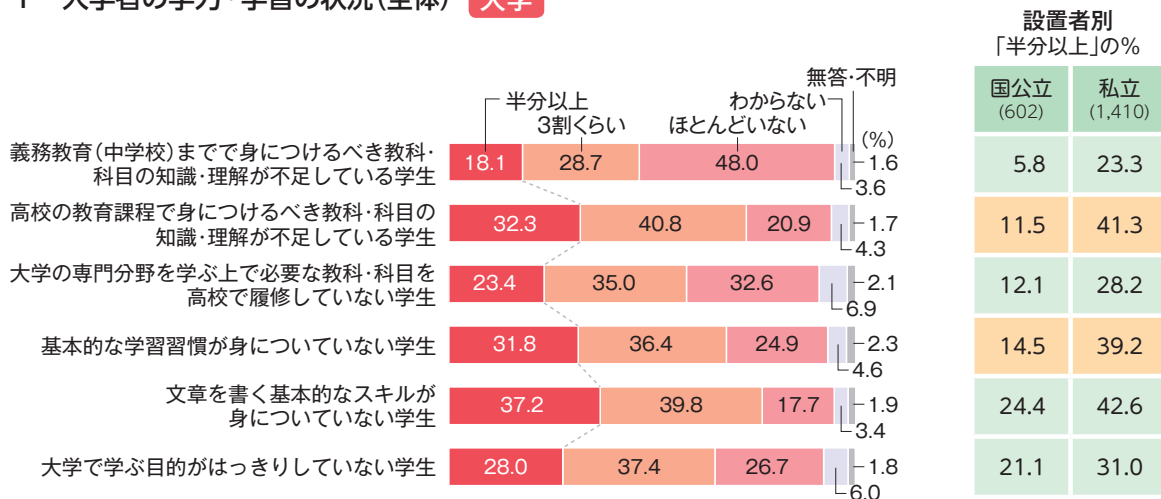
1-1. 大学入学者の学力・学習状況

高校の教科・科目の知識・理解が不足している学生が半数以上いる大学(学科)が3割。

入学者の学力や学習状況に関する項目について、1年生の中に該当者がどの程度いるのかを大学にたずねたところ、「義務教育(中学校)までで身につけるべき教科・科目の知識・理解が不足している学生」が「半分以上」いる(「半分くらい」+「7割くらい」+「ほとんど全員」、以下同)と回答したのは18.1%であった(図1-1)。一方、高校にも同様に、四年制大学に進学予定の3年生についてたずねたところ、「義務教育(中学校)までの知識・理解が不足している生徒」が、進学予定者の「半分以上」と回答した高校が32.3%であった(図1-2)。さらに、大学には「高校の教育課程で身につけるべき教科・科目の知識・理解が不足している学生」についてもたずねているが、「半分以上」いる学科の割合は32.3%であった。これを設置者別にみると「国公立」11.5%に対し「私立」では41.3%と大きな違いがみられる。また、「文章を書く基本的なスキルが身につけていない学生(生徒)」が「半分以上」いる割合は高校・大学ともに37%と高くなっている。

Q 貴学科の1年生についてお聞きします。貴学科の今年度の1年生で、次のような学生はどれくらいいますか。

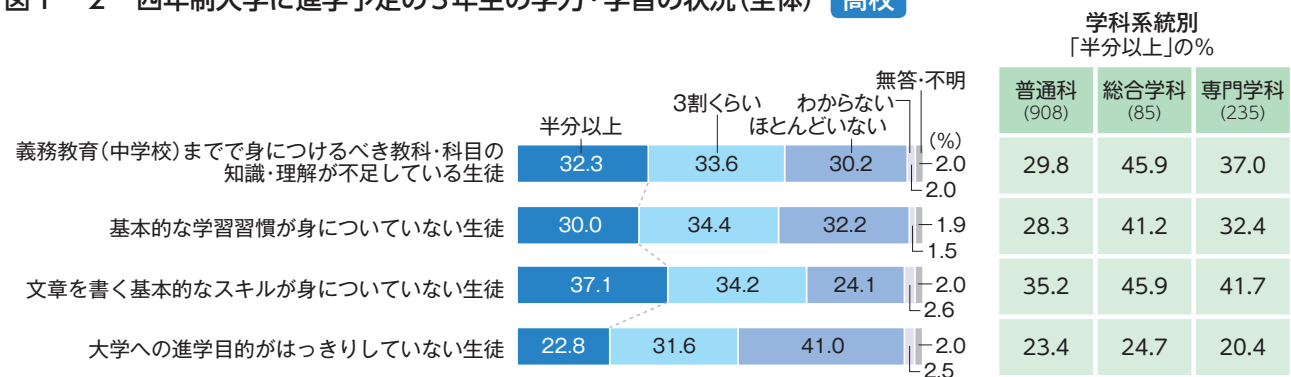
図1-1 入学者の学力・学習の状況(全体) **大学**



注1) 「半分以上」の割合は、「ほとんど全員」「7割くらい」「半分くらい」の合計の値。図1-2も同じ。
注2) 設置者別の表の は、20ポイント以上の差があるものを表す。

Q 貴校から四年制大学に進学する予定の生徒(3年生)についてうかがいます。進学予定の3年生の中で、次のような生徒はどれくらいいますか。

図1-2 四年制大学に進学予定の3年生の学力・学習の状況(全体) **高校**



1-2. 大学で課題に感じていること

実施している入試方法が多いほど、「学生間の学力差が大きく、授業がしづらい」と感じている。

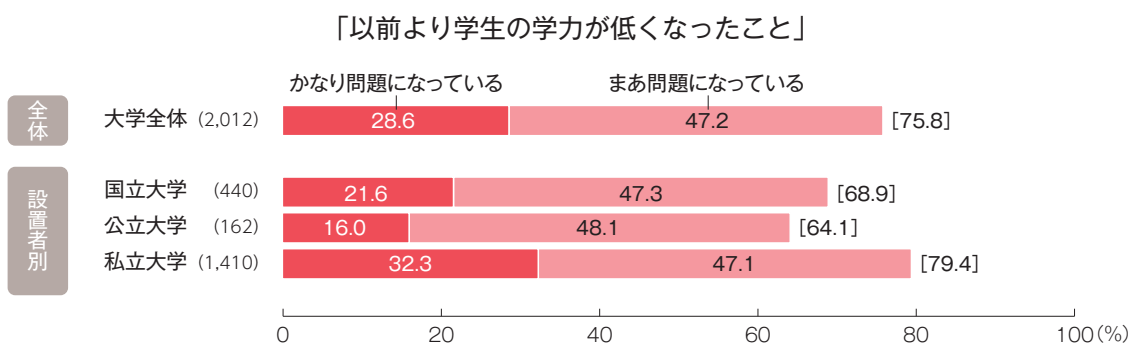
大学の授業を通して、「以前より学生の学力が低くなったこと」が「問題になっている」(「かなり問題になっている」+「まあ問題になっている」、以下同)との回答が全体で75.8%と7割以上が問題に感じている。一方、「学生間の学力差が大きく、授業がしづらいこと」は全体で67.8%で、国公立大学が40%台にとどまるのに対し、私立大学は77.4%と顕著に高い。また、実施している入試方法の数別にもクロスをしたところ、入試方法の数が多くなるほど「問題になっている」割合が高くなることわかる。

Q

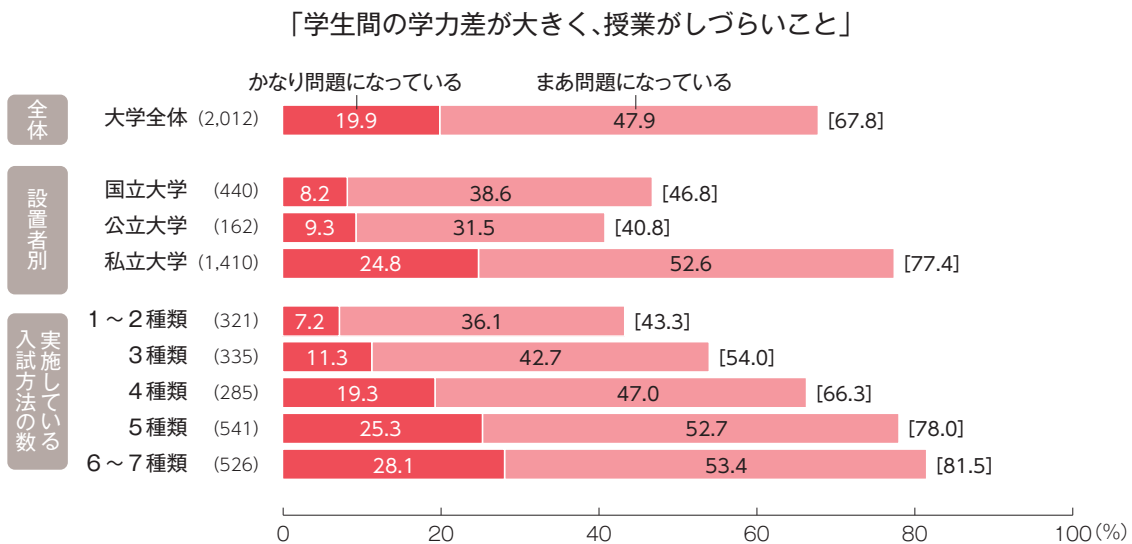
貴学科では、授業において、次のようなことが問題になっていますか。

図1-3 入学者の学力・学習に関する意識(全体・設置者別)

大学



注1) 選択肢は、「かなり問題になっている」「まあ問題になっている」「あまり問題になっていない」「まったく問題になっていない」の4段階。下図も同じ。
注2) []内の値は、「かなり問題になっている」+「まあ問題になっている」の%。下図も同じ。



注) 「実施している入試方法の数」は、実施している入学者選抜方法をたずねた質問(p11の図2-1参照)で、「一般入試」「センター利用入試」「指定校推薦入試」「一般推薦入試」「AO入試」「附属高校推薦」「その他」の7項目の中から選択した合計の数。

1-3. 大学で必要な入学者レディネス

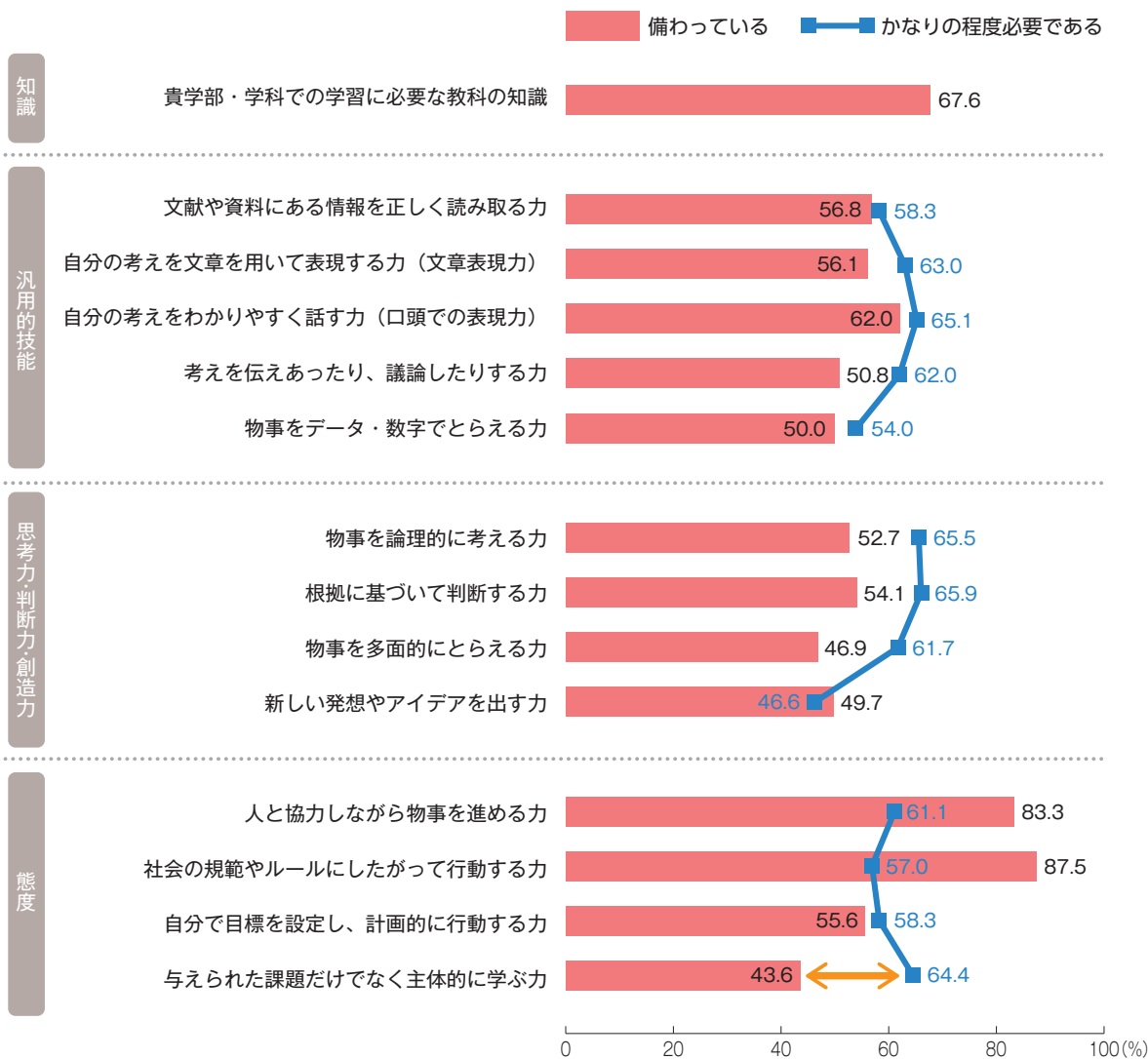
「主体的に学ぶ力」は大学での必要度に対して、入学者に身につけている割合は低い。

大学は、入学レディネスとしてどのような能力をどの程度必要とし、それがどのくらい学生に備わっていると感じているのか、「知識」「汎用的技能」「思考力・判断力・創造力」「態度」に関する14項目についてたずねた。

まず、必要度について、「かなりの程度必要である」との回答割合が高い項目が、「根拠に基づいて判断する力」65.9%、「物事を論理的に考える力」65.5%、「自分の考えをわかりやすく話す力（口頭での表現力）」65.1%、「与えられた課題だけでなく主体的に学ぶ力」64.4%である。一方、身につけ度合いが高いのは、「社会の規範やルールにしたがって行動する力」87.5%、「人と協力しながら物事を進める力」83.3%で、8割を超えている。これらのギャップをみると、「与えられた課題だけでなく主体的に学ぶ力」が必要度64.4%に対し、身につけ度合いが43.6%と、最もギャップが大きくなっている。

Q 貴学科に入学する学生の学力・能力についてお聞きます。
 (1) 次のような学力・能力は、学生が貴学科で学ぶ上でどの程度必要だと考えますか。
 (2) 実際に、貴学科の入学者には(1)の水準に対してどの程度それらの学力・能力が備わっていると思いますか。

図1-4 入学者の学力・能力の必要度合いと身につけ度合い(全体) **大学**



注1) 「備わっている」は、「十分備わっている」+「ある程度備わっている」の%。
 注2) 「貴学部・学科での学習に必要な教科の知識」については、必要度をたずねていない。
 注3) ⇔は必要度に対して、備わっている割合が20ポイント以上少ないもの。

1-4. 高校での学力・能力の育成状況 ①全体

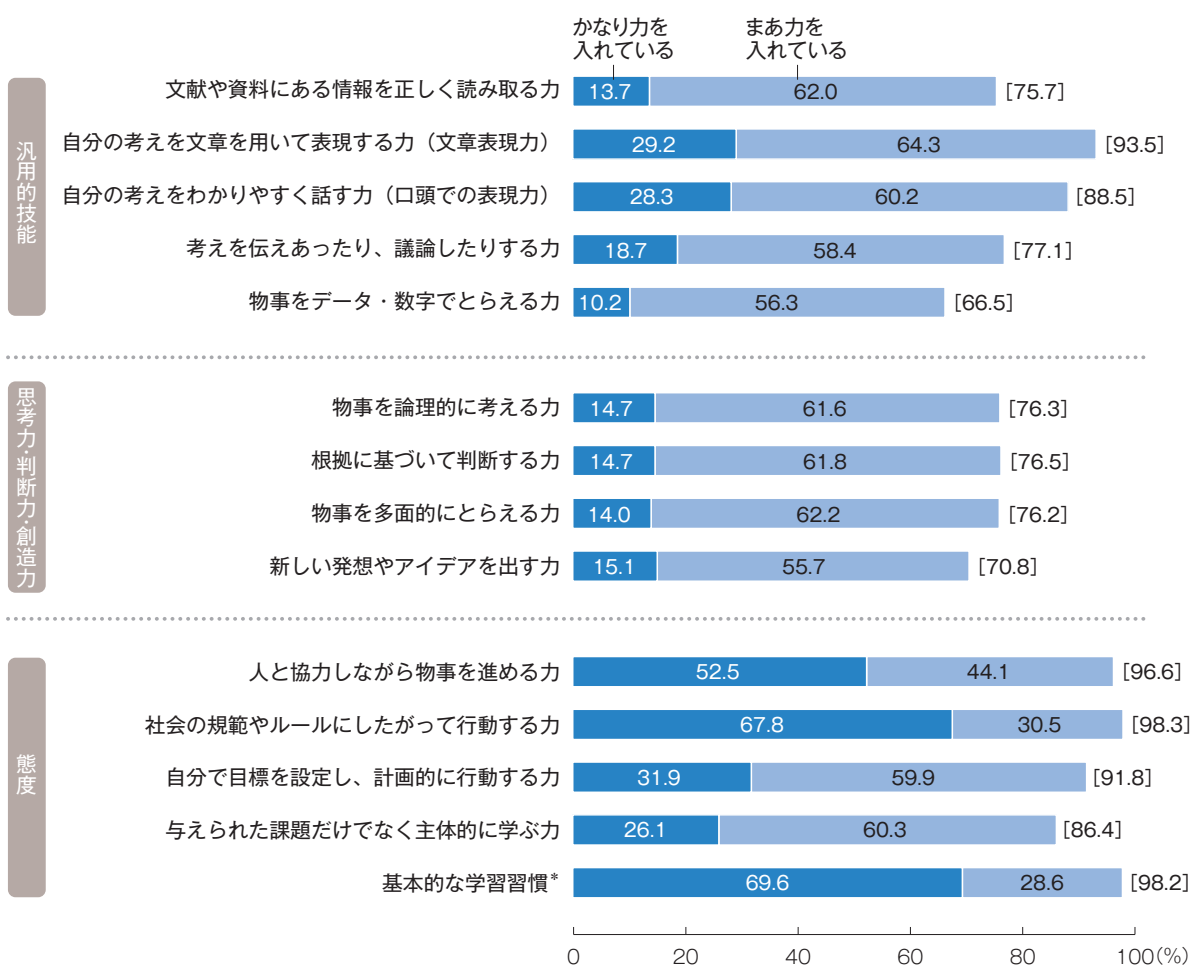
高校で育成に力をいれて取り組んでいるのは「基本的な学習習慣」や「社会の規範やルールにしたがって行動する力」。

高校に対しても、力を入れて育成に取り組んでいる学力・能力についてたずねた。まず、「かなり力を入れている」の回答率の高いものが、「基本的な学習習慣」(69.6%)と「社会の規範やルールにしたがって行動する力」(67.8%)、「人と協力しながら物事を進める力」(52.5%)といった態度に関する項目で、半数を超えている。「まあ力を入れている」も含めると、8割を超えているのが、「態度」に関する5項目全てと「自分の考えを文章を用いて表現する力(文章表現力)」や「自分の考えをわかりやすく話す力(口頭での表現力)」といった表現力に関する項目であった。

Q

次のような学力・能力の育成について、貴校ではどの程度力を入れて取り組んでいますか。

図1-5 高校での学力・能力の育成状況(全体) **高校**



注1) 選択肢は、「かなり力を入れている」「まあ力を入れている」「あまり力を入れていない」の3段階。

注2) []内の値は、「かなり力を入れている」+「まあ力を入れている」の%。

注3) *「基本的な学習習慣」は、高校のみで、大学にはたずねていない。

②とくに力を入れていること

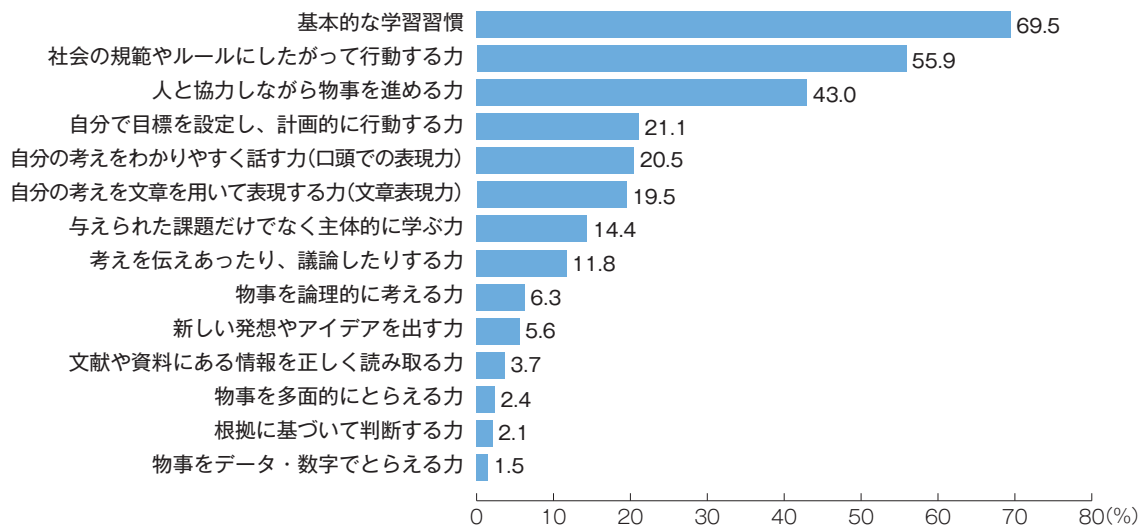
高校の7割が「基本的な学習習慣」の育成にとくに力を入れている。

学力・能力として掲げた14項目の中から、とくに力を入れて育成に取り組んでいる項目を3つまで選んでもらった結果を図1-6に示す。最も多いのは「基本的な学習習慣」69.5%、次いで「社会の規範やルールにしたがって行動する力」55.9%、「人と協力しながら物事を進める力」43.0%といった習慣や態度に関する項目である。次に、これらを学科別、普通科の四年制大学進学率別にみたものが、図1-7である。学科別には、「人と協力しながら物事を進める力」が専門学科で高く、「自分の考えをわかりやすく話す力」は総合学科で高い。普通科の四年制大学進学率別では、「社会の規範やルールにしたがって行動する力」「人と協力しながら物事を進める力」は進学率の低い学校で高く、「自分で目標を設定し、計画的に行動する力」は進学率の高い学校の方が高くなっている。

Q

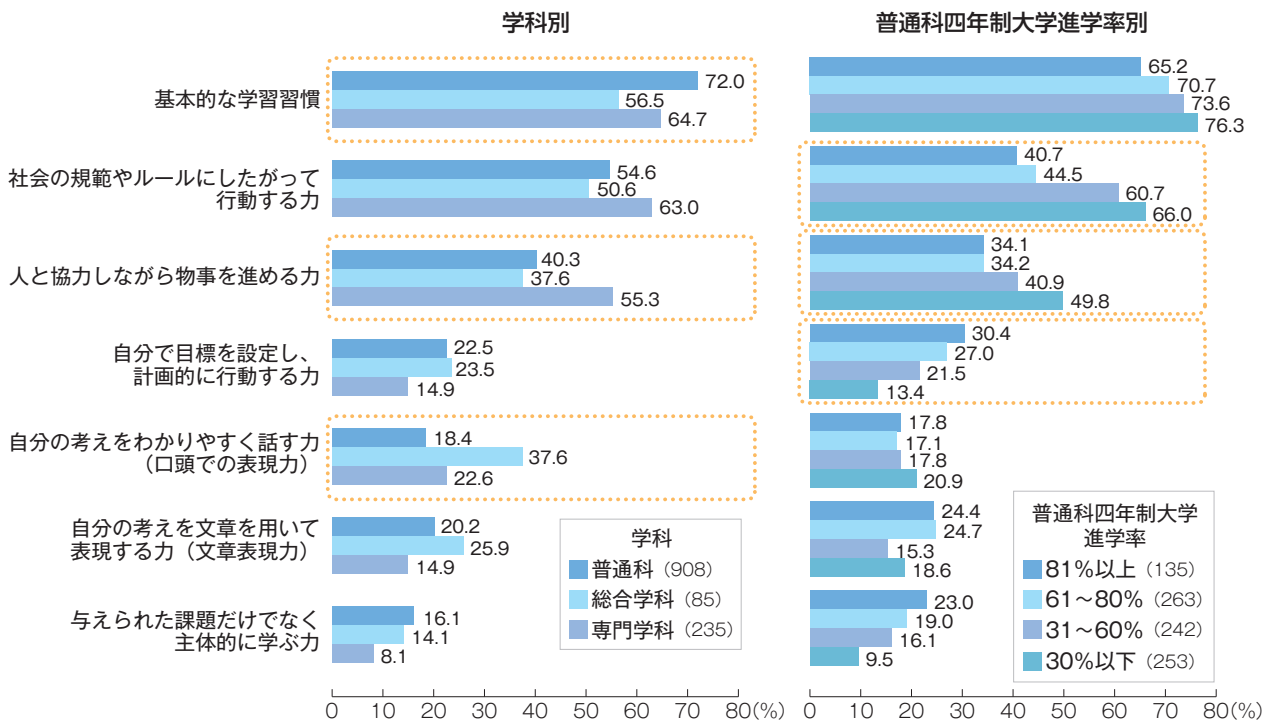
次の学力・能力の中で、貴校がとくに力を入れて取り組んでいる育成を3つまで選び、回答欄に該当する文字を記入してください。

図1-6 特にとくに力を入れて育成に取り組んでいる学力・能力(全体) **高校**



注) 14項目の中から3つまで選択したもの。

図1-7 特にとくに力を入れて育成に取り組んでいる学力・能力 上位7項目(学科別・普通科四年制大学進学率別) **高校**



注) 図の は、それぞれ学科別、進学率別に最大値と最小値に15ポイント以上の差があるものを表す。